オリオン所有地取得へ

琉球キャピタル 数十億円規模

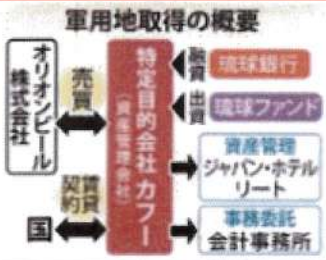
キンザー内4万6855平方メートル

琉球銀行（那覇市、川上康頭取）などが立ち上げたファンド運営の琉球キャピタル（同、池端透社長）は1日、那覇市内で記者会見し、オリオンビール（豊見城市、村野一社長）が所有する浦添市の米軍キャンプ・キンザー（牧港補給地区）内の軍用地を取得すると発表した。取得額は非開示だが、数十億円規模に上る。琉球キャピタルのファンドによる投資は5件目で不動産取得は3件目。

（政経部・川野真由子）＝7面に解説

同ファンドは、今回を含めた5案件に約64億円の資金の大部分を投資したという。池端社長は「新たなファンドの組成を視野に検討を進めていきたい」とした。ファンドの発起人でもある琉球銀行の川上頭取は「意義、役割を十分果たせたのではないかと思う。さらに沖縄の発展につながるように支援していきたい」と話した。

軍用地取得の概要



土地は、同ファンドなどが出資し設立した特定目的会社「カフー」を通じ取得する。

オリオンが売却する土地は約4万6855平方メートル。同社は元々、浦添市城間に本社があり、本社移転の候補地や投資の一環で2008年からキンザー内の軍用地を複数所有していた。

国内株式市場への新規株式公開（IPO）に向け、本業のビールなど酒類清涼飲料事業とホテルなどの観光不動産事業に注力し資産ポートフォリオを再構築するため土地売却を決めた。

売却で得た資金は、名護工場の設備改修やホテルロイヤルオリオンのリノベーション、基幹システムの更新を含むデジタルトランスフォーメーションなどへの投資に回す考え。

琉球キャピタルが運営するファンドは、地元の資金を活用して不動産などの県内資産の流出を防ぐ目的で20年8月に設立された。キャンプ・キンザーは将来的に返還が予定されており、近隣の開発などを含めて今後の沖縄の発展に不可欠な資産と意義付け、県内資産の保全を図る。

ファンドは投資分の回収のため、5年以内に土地を出資社や県内企業、浦添市などへ売却することを想定する。

森元首相に現金提供か

台風11号 あす先

きょう北上 勢力強め

与那国の魅力触れ

きょうからタイムスビル